

授 業 科 目 名	教師とは何か —史的省察—	教 員 名	河原 国男	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	講義	担当形態	単独		保育士	選択必修
科 目 番 号	JIN108	配当年次	1年後期	卒業要件	こども音楽療育士	
単 位 数	2単位					選択必修
科 目 目 的	教養科目（保育士）					
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等						
一 般 目 標	<p>教師とは何か、という基本的問いに向き合いながら、「教員としての使命感、責任感、教育的愛情等を理解」することを一般目標とする。</p> <p>この目標は、1年次「教職概論」、2年次の「教育原理」、4年前期の「教職実践演習」でも重んじられる。学部段階のみならず、各都道府県が定める現職教員対象の「教員育成指標」においても、各ステージに即して必須の事項として重んじられている。</p> <p>教養科目として1年次に位置付けられる本科目では、「教育原理」等の関連科目と対比して、特に2つの点に特徴的である。第一に、市民に必要な一般教養として「振り返る」あるいは、史的省察、歴史的対話という精神の働きの重要性を理解することを目指す。第二に、その精神の働きによる、史的事実について認識を踏まえて、「教師」という存在が固有な意味をおびて歴史的に誕生したことを掘り下げて理解する。</p>					
到 達 目 標	<p>(1) 「教員」「教師」「教育者」「先生」などの諸概念について、仮説的に理解できる。</p> <p>(2) 史的省察が、「振り返り」と対話という二つの要素を伴った歴史的対話ともいえる精神の働きであることを理解し、個人のライフストーリー等に即して、各人がそれぞれに実践できる。</p> <p>(3) 史的省察／歴史的対話の共同の実践として、わが国における学校と教員の歴史という対象を理解することができる。</p> <p>(4) 以上の1、2の取り組みを通じて、「教師」とは何か、どのような存在か、その成り立ちについて仮説を理解するとともに、どのようにして実践できるか、その解を導き出すことができる。</p>					
授 業 の 概 要	<p>1. 教員に必要な資質能力の構成要素のうち、「使命感、責任感、教育的愛情等」の要素と、他の諸要素との関連について取り上げる。</p> <p>2. 「主体的対話的で深い学び」を理論的に理解するとともに、一人一人がみずからのライフストーリーを語り合う場面の設定によって実践する。</p> <p>3. 学校教育の種々の場面での「振り返り」活動の意義について再認識する。</p> <p>4. 学校と教員の歴史について理解する。</p> <p>5. 基本的史・資料を読解しながら、歴史的実事が意識的に＜構成＞されうるものであることを理解する。</p> <p>6. 漱石『心』を文学的に鑑賞するというのではなく、各人が対話的に向き合うことを実践する。また、同作品を一つの史料として捉えて、歴史的流れの中に位置付けられることを理解する。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている」。「2 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	<p>第1回：教師とは何か。 目標 (1)</p> <p>第2回：対話という働き 目標 (2)</p> <p>第3回：歴史的対話：回避と観照 目標 (2)</p>					

	<p>第4回：歴史的対話：実践応答 目標 (2)</p> <p>第5回：歴史的対話の実践／私自身の「振り返り」 目標 (2)</p> <p>第6回：私自身の「振り返り」の実践 目標 (2)</p> <p>第7回：学校と教員の史的誕生：近世私塾での師弟関係 目標 (3)</p> <p>第8回：学校と教員の史的誕生：19世紀藩校での師弟関係 目標 (3)</p> <p>第9回：学校と教員の史的誕生：近代学校の誕生 目標 (3)</p> <p>第10回：学校と教員の史的誕生：教師とは、という問い 目標 (3) (4)</p> <p>第11回：学校と教員の史的誕生：漱石の応答 目標 (3) (4)</p> <p>第12回：学校と教員の史的誕生：教育学者石山脩平の説明 目標 (3) (4)</p> <p>第13回：学校と教員の史的誕生：戦後における教師の一典型 目標 (3) (4)</p> <p>第14回：学校行事としての「振り返り」：卒業式について 目標 (3) (4)</p> <p>第15回：教師と何か：史的省察 目標(4)</p>
学生に対する評価	<p>〈成績評価の基準〉</p> <p>漱石『心』についてのレポート：30%、プレゼンテーション（私自身を振り返る）：10%、期末試験60%で総合的な評価を行う。</p> <p>〈成績評価の方法〉</p> <p>上記の総合評価で行う。</p> <p>総合評価が60点以上を合格とする。</p> <p>なお、レポートはGoogle、Drive に提出を求め、すべて閲覧できるようにする。</p>
時間外の学習について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学校生活を振り返り、どのように成長を実感できる場面が教師たちによって用意されてきたか、具体的事物を通じてあらためて確認し、検証してみよう。 これまでの自分にとって親、兄弟姉妹、友人、教師、その他、自己形成に果たしている第三者の役割、出来事（成功と失敗等）について振り返り、考えてみよう。 <p>こうした振り返りとともに、下記の間についても考えて、自分の所見をまとめてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 漱石「坊ちゃん」はどのような教員像として登場しているか。 漱石「心」に登場する「先生」がどのような意味で「私」にとって「先生」というに値する人物であるのか。 「振り返り」の学校行事としての卒業式はなぜ感動的なものとして、私たちは受け止められるのか、その他
テキスト	講義資料を適宜、授業時に配布する。副読本として、夏目漱石『心』を用意する。
参考書・参考資料等	社会的養護にかかわる「ライフストーリー・ワーク」と称される活動を取り上げた文献がある。「振り返り」という行為の応用篇として参考になる。図書館の推薦図書に配架。
担当者からのメッセージ	授業全体を通じて「主体的対話的で深い学び」を実践しよう。
オフィスアワー	毎週水曜日：9:05-10:35